

# 広島別院だより

Vol.8  
冬号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会発行

## 報恩講執行

### 別院再建後、初の執行

昨年十二月三日・四日に広島別院で報恩講が執行されました。

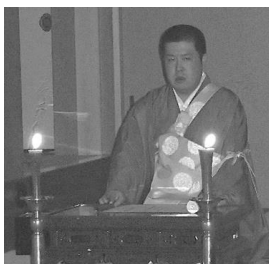
二日間で僧侶約四十名、参詣者約百名が参集し、別院再建後、初の報恩講が盛大かつ、厳かに勤められました。

雅楽を織り交ぜた勤行や親鸞聖人のご一生を記した『御伝鈔』の拝読などに参詣したご門徒は、「こんなに重厚な



儀式は別院の報恩講ならではの思いです。また来年も必ずお参りいたします。」と喜ばれていました。

講師の橋本真師（能登教区駐在教導）は、「地元の皆様の長年の悲願であった別院再建が成り、こうして報恩講をお迎えできたことは誠に喜ばしいことです。」と祝い、「現代はかたちを軽視、あるいは無視する時代。しかし報恩講という儀式（かたち）があったからこそ親鸞聖人の教えが永く伝えられてきたのです。今後も報恩講を大切にお勤めください。」と仏事の大切さを話されました。



御伝鈔の拝読



橋本真師

## 別院の定紋（じょうもん）を制定

### 本堂欄間に定紋を設置

広島別院では、再建に際して新たに寺院の紋である定紋を制定しました。この紋は滋賀県高島市鴨の慈敬寺（じきょうじ）からいただいたものです。

戦国時代、織田信長と石山合戦を戦っていた本願寺第十二代教如上人は本願寺を退去後、毛利輝元を頼って、側近の慈敬寺証智・教智父子と一時、広島に滞在していたと伝えられています。その時、輝元

から寄進された寺が後の広島別院の基になりました。後に教如上人は、この寺を教智に託して帰京します。（詳しくは『広島別院だより』Vol.13参照）  
広島別院と慈敬寺は深いご縁があることから、この度の別院再建を記念して、二〇一三年四月に慈敬寺の定紋である鴨牡丹紋（かもぼたんもん）が正式に広島別院の定紋となりました。

## お寺の活動いろいろ

### 初の在広門徒会報恩講執行

昨年十一月十五日、北広島町の最勝寺（安芸北組）広島門信徒会（広島市内在住の門信徒会）の報恩講が別院で勤められました。

別院再建の理念の一つである在広門徒（地元を離れ、広島市内に住む門徒）の拠点となるべく再出発した広島別院に、最勝寺住職をはじめ同郷の門徒二十名の親睦の輪が広がりました。

### 仏教基礎講座（安芸南組主催）のお知らせ

昨年七月から開講した仏教基礎講座（全八回）もいよいよ後半に入りました。定員に余裕がありますので、受講希望の方は講座当日に受付にてお申し込みください。詳しくは広島別院まで

【次回講座】二月七日（土）午後一時～四時



古田和弘師



## お寺のはてなワード(5)

## ○住職 (じゅうしよく)

お寺の運営や教化の代表責任者。浄土真宗では住職を「院さん」「院主(いんじゅ)さん」「院家(いんげ)さん」などと呼びます。他宗では、天台・真言・浄土宗系は「和尚」。禅宗系は「方丈・和尚」。日蓮宗系は「上人」と呼ぶことが多いようです。

ちなみに「和尚」には「おしょう」、「かしよう」、「わじよう」など様々な読み方があります。

## ○坊守 (ぼうもり)

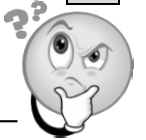
浄土真宗では住職の伴侶のことを指すことが多いのですが、現在は男性坊守や住職の配偶者以外の坊守も認められています。(真宗大谷派の場合)

他の宗派では、寺庭婦人、大黒、梵妻さん、お庫裡さん、道念さんなどと呼ぶそうです。

## ○新発意 (しんぼち)

仏門に入って間もない人のことです。浄土真宗では得度した幼少の子のことを言います。

ちなみに住職を引退すると老院(ろういん)、または前任(ぜんじゆう)と言います。住職になる前の寺の後継者を若院(わかいん・じゃくいん)、または後住(ごじゆう)とも言います。



## 別院行事の「あんない

はるひがんえ

## 春彼岸会

【期日】二〇一五年三月二十三日(月)

【講師】穴戸大観師(広島市安芸区 龍善寺住職)

【日程】午後二時 勤行

二時半 法話

四時 終了(予定)

## 道場樹 編集室より

先日、事故で亡くなった子供さんの葬儀を勤めました。突然の悲しい現実にご遺族の悲しみは計り知れないものでした。「生」と「死」は隣り合わせの誰にでも平等な事実なのだということをあらためて感じ、「あたりまえ」ではない「今」をあたりまえに過ごしている自分を自覚するべきだと思えました。それと同時に、深い悲しみを抱えている人が目の前にいるとき、私はどうあるべきかを考えさせられました。

そんな時、『御臨末の御書』の「二人居て喜ばは二人と思ふべし、二人居て喜ばは三人と思ふべし、その一人は親鸞なり」という一文をふと思い出し、この言葉は苦しい時にも当てはまるように思えました。人は本当に苦しい時、「頑張れ」「元氣を出して」と言われるより、「苦しいよね」「泣いてもいいよ」と、ただ寄り添ってくれるほうが少しでも心安らぐ時があるのではないのでしょうか。私は多くの人・言葉との出会いを大切な縁として歩み続けてまいりたいと思います。(R・S)



教如上人

## 教如上人四百回忌法要

【日時】二〇一五年四月十八日(土)

午後一時半 法要始

【講師】青木馨師(同朋大学講師)

広島別院の開基である教如上人の四百回忌法要を厳修します。詳細は次号『広島別院だより 春号』

でお知らせいたします。

## 真宗大谷派(東本願寺)広島別院 明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

Tel 082-241-5342(電話・FAX 共通)

## 【HP アドレス】

http://www.ac.auone-net.jp/~hirobetu/